事例No.	3708
公表年度	R7
団体の属性	一般市
団体名	徳島県阿南市

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・観光 ・歳入確保

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

阿南SUPタウンプロジェクトにみる環境共生型地域活性化

出典

地方自治研究機構　先進事例調査研究（令和7年度）

阿南 SUP タウンプロジェクトにみる環境共生型地域活性化

取組のあらまし

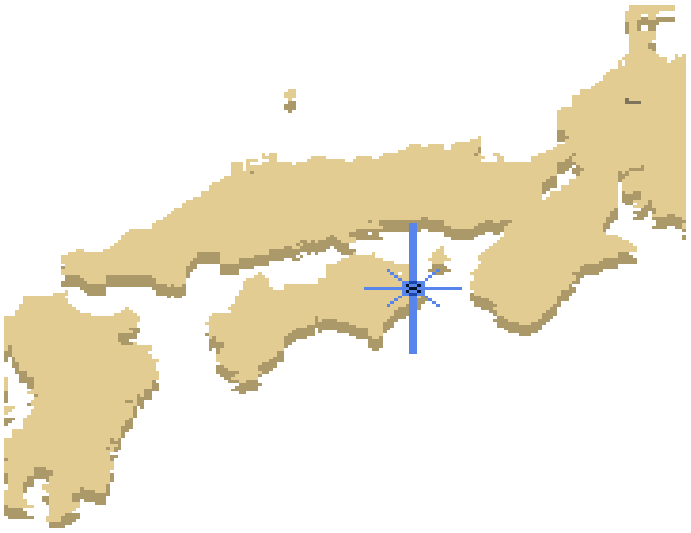
取 組 団 体　徳島県阿南市

取 組 内 容　豊かな海岸資源を活かし、SUP を核とした「阿南 SUP タウンプロジェクト」を展開。ESCA・ESPA 制度により行政・企業・市民・来訪者が協働し、環境保全と地域経済を循環させる仕組みを確立。アースシップツアー等の体験型事業を通じて関係人口が拡大し、環境共生型地域活性化に寄与。

1　徳島県阿南市の概要

人　　口	67,946 人	令和７年１月１日現在（住民基本台帳人口）
職 員 数	421 人	令和６年４月１日現在（一般行政部門）
総 面 積	279.22 ㎢	令和７年 10 月１日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表　１　徳島県阿南市の位置図



出所：阿南市ホームページ

2　取組の背景・目的

(1) 事業背景

徳島県阿南市は、四国の最東端に位置し、紀伊水道と太平洋に面する温暖な気候と多様な自然環境を有するまちである。市内には、室戸阿南海岸国定公園に指定された美しい海岸線、リアス式海岸や小島群など、多様な地形と景観資源が広がり、山海の幸にも恵まれている。一方で、県南部は徳島県内でも観光客数が少なく、「観光で稼ぐ」という意識や仕組みが十分に根付いていなかった。

阿南市はこうした課題を踏まえ、自然環境を活かしつつ地域経済の持続性を高める新たな観光・地域振興モデルの確立を目指した。地域には SUP（スタンドアップパドルボード）に適した海岸・河川が多く存在し、初心者から上級者まで楽しめる地形・波質・アクセス条件が整っている。京阪神から日帰り可能という立地的優位性も相まって、阿南市は令和元年に「阿南 SUP タウンプロジェクト」を立ち上げた。

本事業は、地域の豊かな自然環境を活かした“環境共生型まちづくり”を理念に、SUP を入口とした交流人口・関係人口の創出を通じて、地域ブランディングと経済循環の好循環を形成することを目的としている。単なる観光イベントではなく、自然と人、地域と都市、環境と経済を結ぶ新しい公共の仕組みづくりとして構想されたものである。

(2) 取組の体系と推進体制

阿南市は、事業開始と同時に行政・民間・地域・来訪者が協働する体制を整備した。市の観光交流課が事業全体の制度設計・広報・補助制度を担い、地域事業者を「EARTH SHIP PARTNER ANAN（ESPA）」として登録し、環境配慮型事業や SDGs 経営の推進役を担わせた。一方、県外の環境意識の高い個人を「EARTH SHIP CREW ANAN（ESCA）」として登録し、清掃活動やイベント運営などを通じて地域との関わりを深める仕組みを構築した。

こうして形成された官民協働の三層構造―行政による制度設計・支援、地域事業者による環境配慮経営、県外住民・ボランティアによる地域活動―が、事業の中核をなす。これにより、行政主導から地域主体への移行を見据えた、持続可能な地域運営モデルが確立された。

3　取組内容

(1) ESCA／ESPA 制度の運用

ESCA は、阿南市の環境活動を支援する県外住民の登録制度であり、ビーチクリーン、環境啓発イベント、マイボトル・マイバッグ推進などを通じて持続可能な社会づくりに寄与している。ESCA 登録者は市内 ESPA 事業者の特典を受けられる仕組みがあり、ボランティア参加と地域消費が連動する。

ESPA は、市内で環境配慮型経営を実践する企業・団体・個人を登録する制度である。登録事業者には、環境美化活動への参加、プラスチック削減への取り組み、ESCA 会員への特典提供等への参画や、SDGs 行動宣言の作成が求められる。登録企業は、阿南市版ふるさと納税返礼品提供者としても認定され、経済的循環の担い手として位置付けられている。

ESCA と ESPA は相互補完的に機能し、環境活動と経済活動を橋渡しする官民協働の基盤を形成している。これにより、市民・企業・来訪者がともに“阿南の環境を守る主体”として関わる仕組みが定着した。

図表 ２　ESCA クルー・ESPA 事業者が協働して実施する海岸清掃活動

出所：SUP タウン阿南　公式サイト

(2) SUP 体験・レース事業の展開

令和元年度以降、阿南市は SUP 体験会やレース大会を継続的に開催している。また、令和 2 年度以降は SUP レース大会を本格的に開催し、県内外から多くの愛好者が集い、阿南市の海を舞台とした交流人口の拡大が進み､地域ブランドとしての認知度も着実に高まっている。

図表 ３　阿南市の海を舞台にした SUP 体験の様子

出所：SUP タウン阿南　公式サイト

(3) アースシップツアー

環境配慮型のエコツーリズム「アースシップツアー」（EARTH SHIP TOUR）を令和 4 年度以降継続して実施している。ツアーは SUP を核としながら、阿南市の自然・文化・産業を総合

的に体験する３日間のモデルコースとして構成されている。移動には公共交通や折り畳み自転車を使用し、宿泊・食事・体験には ESPA 登録事業者を中心に組み込むなど、環境負荷を抑えた設計が特徴である。ツアーでは、SUP 体験、ビーチクリーン活動、地元高校生との交流、地場食材を使った調理体験、ESPA 企業見学などを行う。参加者は都市圏在住の環境意識の高い若年層・社会人が中心であり、体験後には ESCA 登録や再訪につながるケースも多い。こうした実践を通じて、阿南市は“環境を守りながら地域に関わる”関係人口の形成を進めている。

図表 ４　環境負荷を抑えた“アースシップツアー”の移動・体験設計

出所：SUP タウン阿南　公式サイト

４　本取組の成果

本事業は、SUP 体験・ESCA／ESPA 制度・ふるさと納税制度が相互に連動することで、環境保全と地域経済の好循環を実現した点に特徴がある。SUP 大会やツアー参加を通じて環境活動に関心を持つ人が ESCA として登録し、地元事業者と接点を持つことで地域消費が生まれ、ESPA 事業者が経済的基盤を強化する。これが再び環境活動へと還元されるという循環構造が形成されている。

また、市は公式ウェブサイトや Instagram、Facebook を活用し、SUP イベントや ESPA 事業者の取組を定期的に発信している。写真や動画を通じて阿南市の海や人々の活動を視覚的に伝えることで、都市圏の若年層や環境志向層を中心に関心を集めている。こうした共感型の情報発信が、地域のファン層拡大とリピーター形成につながり、結果として関係人口の拡大に寄与しているものと考えられる。阿南市の担当課は、今後の展望について、「阿南 SUP タウンプロジェクトを活用したふるさと住民登録制度の設計を行っていきたい。」としている。

関連・参考資料

総務省『令和２年度　「関係人口創出・拡大事業」モデル事業 調査報告書』160 頁-168 頁
https://www.soumu.go.jp/main_content/000751738.pdf
地域活性化センター『令和４年度　地域活性化事例集』98 頁
SUP タウン阿南　公式サイト
https://sup-anan.com/